

災害等情報（詳報）

鉱種：石灰石	鉱山の所在地：山口県					
災害等の種類：	発生日時：	罹災者数	死	重	軽	計
坑外・火災	平成30年9月19日(水) 10時45分		—	—	—	—
罹災者（年齢、職種、直轄・請負の別、勤続年数、うち担当職経験年数）： —						
罹災程度：—						
<p>【概要】</p> <p>10時45分頃、パワーショベルで泥混合作業中、オペレーターがパワーショベルから異音が発生していたので、パワーショベルから降りて点検すると、ブーム付け根の油圧ホースが破損し、作動油が噴出しているのに気づいた。エンジンを停止して油圧ホースの破損個所を確認したところ、エンジンボンネット右側の通気口付近から白煙が出ているのを発見した。</p> <p>オペレーターはすぐに、一番近いところにいる作業員Aに電話をし、消火器が車載されている車に乗って現場に来るように連絡した。</p> <p>10時47分頃、エンジンボンネット右側の通気口付近からの白煙が黒煙に変わり、火炎が20cm出た。</p> <p>10時50分頃、車が到着し、車載されている消火器(4型)1本でオペレーターが消火したが、まだ、白煙が出ているため、作業員Aが一番近い電気室内から消火器2本(10型)を車で運び込み、再度、消火器2本で消火を行い、10時53分頃、鎮火した。</p> <p>なお、始業点検、月次点検及び年次点検は保安規程に基づき実施していた。</p>						
<p>【原因】</p> <p>鎮火後、エンジンボンネットを開けて確認したところ、マフラー部分で作動油が燃えたことを確認した。鉱山が、メーカーに火災発生原因の究明を依頼したところ、メーカーの見解は以下のとおり。</p> <p>○油圧ホースから飛散したオイルがボンネットに付着し、高温となったマフラー上部に垂れ落ちたことから、オイルが引火し、ボンネット内部にある断熱材が焼損したものと推定される。</p> <p>○油圧ホースが経年劣化により損傷し、オイルが飛散したものと推定される。</p>						
<p>【対策】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 車両系鉱山機械における油圧ホースの総点検の実施。 2. 当該パワーショベルのブーム付け根の破損した油圧ホースを交換した。 3. 油圧ホースに作動油の飛散防止用カバー(ホースプロテクタ)を取り付ける。 4. 油圧ホースについては、メーカー点検の際に、メーカー推奨の交換時期の前でも 						

ホースの外傷・擦れ・ホースの外面の劣化・ホースの変形・油のにじみ等を発見された場合は交換する。

5. 油圧ホース類の点検方法の教育をメーカーに依頼する。始業点検の方法についてメーカー講習内容を基に、保守点検方法作業手順書、故障・不具合の対応作業手順書を作成し周知した。

【参考情報等】

- 車両系鉱山機械については、始業前点検、月次等定期的に点検を行きましょう。
- 火災を防止するため、消火栓、消火器、消火用砂その他の消火設備は適切に設けましょう。

<鉱山保安法令>

- ・巡視及び点検(鉱山保安法施行規則第 26 条、鉱業権者が講ずべき措置事例第 23 章)
- ・車両系鉱山機械(鉱業上使用する工作物等の技術基準を定める省令第 10 条)

<労働安全衛生法施行規則>

- ・定期自主検査(労働安全衛生法施行規則第 1 6 7 条、1 6 8 条)
- ・補修等(労働安全衛生法施行規則第 1 7 1 条)

【お問い合わせ先】

中国四国産業保安監督部 鉱山保安課 岩井、久保
電話番号：082-224-5755

パワーショベル



エンジンボンネット



ブーム付け根油圧ホース

【当該車両情報】

車両仕様：パワーショベル（バケット容量 0.8m³）

製造：2006.10

延べ稼働時間：8829 時間（災害発生時）

鉱山での重機延べ稼働時間：5513 時間



油圧ホース劣化拡大写真

ボンネット内の断熱材の焼失状況

